巴里素描

岸田國士

ヴォルテエル河岸

霧雨。——外套の襟を立てる。
——いくら……これ？
——ラ・ハルプの文学史……六十法。
——さよなら。
小蒸気の笛。
——危ない、滑りますよ、奥さん。

サン・ミシェル街

新調のズボンが短か過ぎる。
(また、一人で飯を食ふのか)
——おい、どうした。
——うるさい。
マロニエの若葉の匂ひ。

ルユクサンブウル公園

朝から噴水を見てゐる。

玩具のヨットが波を切る。
母親の若い日傘が眩しい。
（昨日の希望……明日の憶ひ出……）
（あいつの瘠せ方はどうだ）
（畜生！　新聞の盗み読みをしやがる）
さあ、いらつしやい、いらつしやい。お子供衆のお
慰み……ポリシネルの大活躍……。木戸はたつた十銭
……。

モンパルナスの基地

——黙つてるね。

——さうでもない。

——何が可笑しいんだ。

——可笑しいもんか。

ボオドレエルの死像の前——

＊（人、象徴の森を経て、こゝを過ぎ行き……）

落葉、落葉、落葉……。

コンコルドの広場

――突つ切らうか……？　よさう。

シャン・ゼリゼエ街

（われをして百万長者たらしめよ）
シトロエンよりも古風な幌馬車
君は女王――われは御者
日の暮れぬ間に
プウロオニユまで一と走り。

ブウロオニュの森

濡れ場によし。
殺し場によし。
朝は独り者の散歩に——
真昼は子供の遊び場に——
夕暮れは語らひによし。
夜更けては、企らみあるものによし。
春は中年の女と一緒がよし。

秋は処女と——
夏は職業婦人と——
冬は……どんな女とでもよし。

凱旋門——（星の広場（プラス・ド・レトワル））

強盗殺人誘拐犯ナポレオン！
扨て、ヴィクトオル・ユゴオ街に出るにはと………
…。
牝牛（巡査）は何処にゐる？

グラン・ブウルヴァール

国際的情慾が服を光らすキャフェ・ド・パリのテラス。

一週間滞在の旅客が宝石屋の飾窓にしがみつく。

それが若し東洋の紳士なら、英語で「面白いものを見せてやるから……」と云つて見給へ。

モンマルトル

巴里の哄笑と吐息——

傍若無人な粋士と感傷的虚無主義者とが踊り子の脚を批評する。

こつちは、オスカア・ワイルドの親友でなければ、ロオトレツクの弟子か。

どつちでもない。それぢや「取り持ち（マクロオ）」だ。

日曜服のタイピストなんか御免だと云ふやつ——など。

機智——「僕といふ人間が存する、それがわるければ御免なさい」
趣味——「すぐわかつちや面白くないね。しかし、考へるのはいやだ」
哲学——「どうにかなつて行くよ」

ルウヴル博物館

一日で一と通り観たといふものは何も観てゐない。
一と月通つてアングルを観たといふものは、アング

ルだけについて話すことを許される。
一年間、毎月二度づゝ、足を運んだものは、もう一年かゝつて、始めから見直す必要があるだらう。
わたしは、宝石を鏤めたルイ十四世の王冠の前で、ラシイヌの詩を想つた。

バスチイユ牢獄の跡

――こら、こら、そんな処に寝とつちやいかん。

植物園

何をしに来たのでもない。
何を観に来たのでもない。
プランシェといふ活動俳優――それに似た動物がゐたからとて、　さほど愉快でもない。
そのくせ、　よく足が向く。
さういふ家が、　どうかするとあるぢやありませんか。

ノオトル・ダム寺院

よく見る絵だ。
鐘の音なら詩人の屋根裏で聴け。
ユゴオはブウルジュワだ。
怪物が水を飲みたがつてゐる（同じ夢を二人が見ないとは限らない）

セエヌ河

釣りをする男
それを見てゐる男
サン・クルウの森が霞の中に浮んでゐる。
それから煙突……
――静かだなあ！

エッフェル塔

何かを下へ投げて見たい――
例へば指環のやうなものを………。

トロカデロの芝生か、廢兵院の庭に、それが落ちたとする。

トロカデロの芝生なら、子守女の指にそれがさゝる。

廢兵院の庭なら、七十年戦役の勇士が、日なたぼツこをしてゐる――その薬缶頭の上で刎ね返る。

「糞（メルド）！」

――それから（エ・ビヤン）……？

オートイユ

午前十時。

テオフィール・ゴオチエが――勿論晩年の――犬を連れて通る。

サン・モオルの尼僧が、藤棚のあるヴィラの門を潜る。

郵便配達が靴の紐を結び直す。

雀が馬糞に集る。

初夏。

花市

ニイスの薔薇がポオの椿に笑ひかける。
椿は笑はない。
「お早う」——チュリップには訛りがある。
寝ざうの悪いダアリヤ。
鈴蘭はもう朝湯をつかつたらしい。

ヴァンセエヌの城門

——こゝへ来たら……？

——ジェルミニイ、そこぢや見えるよ。
——月が出たのかい？

本文中＊印の句は鈴木信太郎訳ボオドレエル「交感」による

底本：「岸田國士全集19」岩波書店
　　１９８９（平成元）年12月8日発行
底本の親本：「言葉言葉言葉」改造社
　　１９２６（大正15）年6月20日発行
初出：「新小説　第二十九年第十一号」
　　１９２４（大正13）年11月1日発行
入力：tatsuki
校正：門田裕志
２００９年9月5日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫

（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。